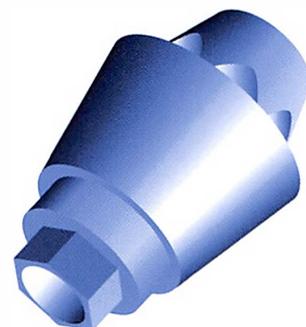

スクリュー固定式アバットメントによる 上部構造の製作





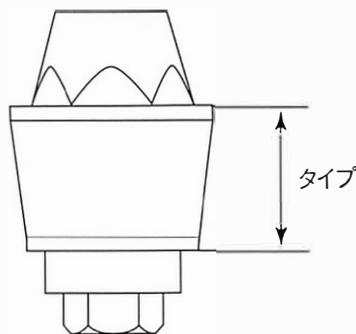
スクリー固定式 アバットメントの特徴・規格

1. スクリューリテンド アバットメントの特徴

- ◇スクリーリテンド アバットメントは、単独歯欠損、多数歯欠損に対応するスクリー固定式専用のアバットメントです。
- ◇ハイジーンスクリー スクリューリテンドタイプをスクリーリテンド アバットメントに装着することにより、粘膜組織の治癒に利用することが出来ます。また、最終補綴物装着までのアバットメント、ネジ部の保護にも有効です。
- ◇スクリーリテンド アバットメントは、粘膜貫通部の高さを各種設定しております。粘膜の状態・厚みに応じて選択して下さい。

2. スクリューリテンド アバットメントの規格

- ◇粘膜貫通部の高さは、1～6mmまで1mmおきに設定し、インプラントボディの直径にあわせて、各種用意しております。



規格のタイプは粘膜貫通部の高さを表しております。

粘膜貫通部の高さ

○○mm

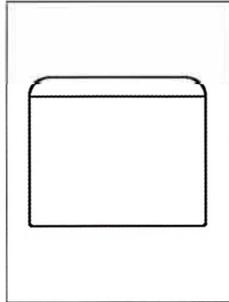
=

スクリーリテンド

アバットメントタイプ.○○

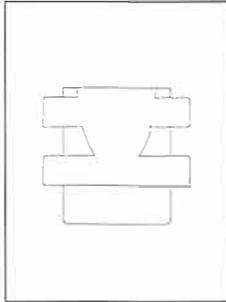
3. スクリューリテンド アバットメントの関連製品

◇粘膜治療

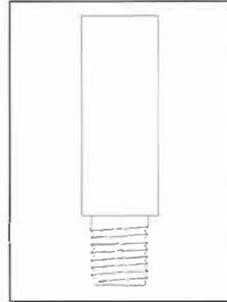


ハイゼンスクリー
スクリーリテンドタイプ

◇印象採得



トランスファーキャップ
スクリーリテンド
ヘクスタイプ

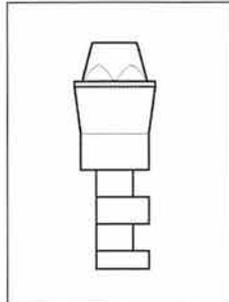


トランスファーキャップ
フィクスドスクリー



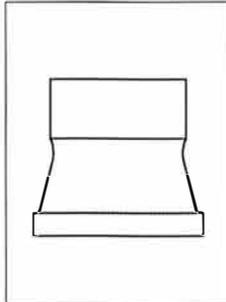
トランスファーキャップ
スクリーリテンド
フリータイプ

◇模型製作

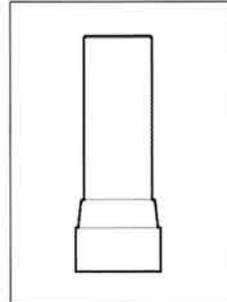


スクリーリテンド
アバットメント
メタルアナログ

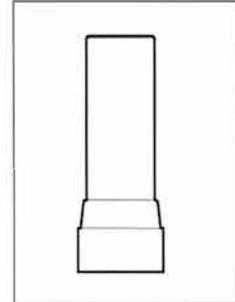
◇上部構造製作



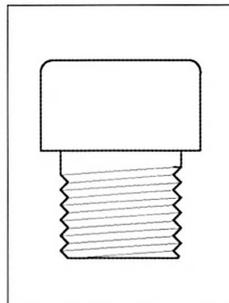
ゴールドシリンダー
スクリーリテンド
フリータイプ



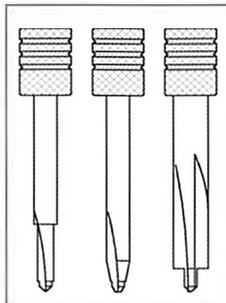
キャストابلシリンダー
スクリーリテンド
ヘクスタイプ



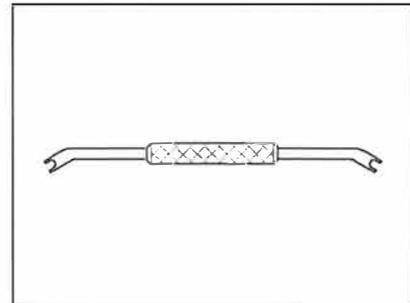
キャストابلシリンダー
スクリーリテンド
フリータイプ



スーパーストラクチャー
フィクスドスクリー

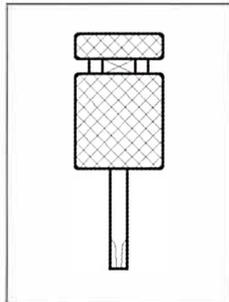


技工用リーマー

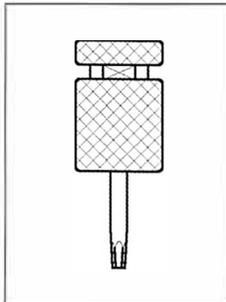


インテリジェントレンチ

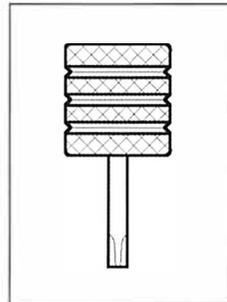
◇固定術具



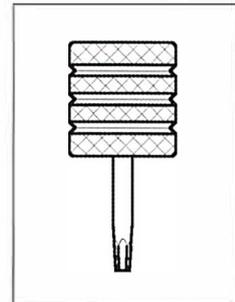
クロストルクドライバー



ヘクストルクドライバー



クロスドライバー
(撤去用)



ヘクスドライバー
(撤去用)

2

単独歯欠損の術式

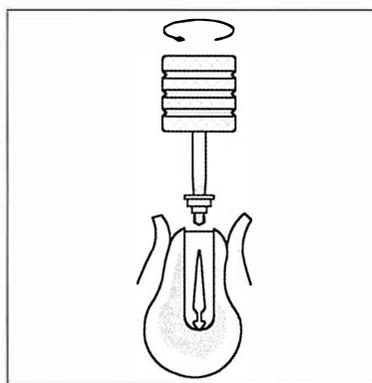
1. アバットメントの選択

第2次手術前に、粘膜の厚みを確認しアバットメントをご選択下さい。

2. 第2次手術の術式

- ① 口腔内洗浄、消毒、浸潤麻酔
- ② 歯肉粘膜・骨膜の切開・剥離
- ③ カバースクリューの撤去

ヘクス ドライバーを用いてカバースクリューを取り外します。

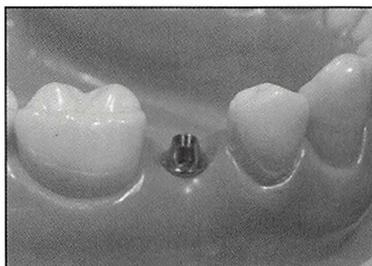


ポイント カバースクリューの上に骨ができて外せない場合があります。その際はラウンドドリルにて骨を除去して下さい。

ポイント ドライバーを強めに差し込むことで把持され、落下防止になります。

④ スクリューリテンド アバットメントの装着

インプラントボディ内部を十分に洗浄したのちスクリーリテンド アバットメントをインプラントボディに装着し、アバットメント フィクスドスクリューをクロス トルクドライバーにて固定します。



ポイント スクリューをドライバーに付ける際は、アバットメントにスクリューを入れ、ドライバーを差し込む方法が便利です。

ポイント トルクをかける際にはインテリジェントレンチにてアバットメントを把持します。

ポイント トルクドライバーにより15N・cmで固定されます。

ポイント アバットメントとインプラントボディが適合しているか、デンタルX線にて確認して下さい。

⑤ハイジーンスクリーへの連結

粘膜の治癒中に粘膜がマージンに上がってこないように、また、ねじの保護のためにハイジーンスクリー スクリューリテンドタイプをヘクスドライバーにて連結します。

ポイント 連結時は強く締めすぎないように注意します。



⑥縫合

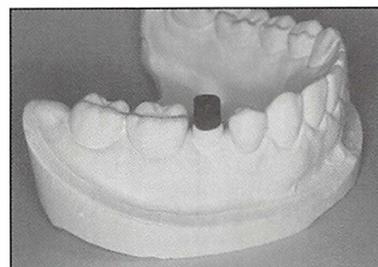
良好な粘膜治癒が行われるように、粘膜の形態を整えて縫合します。

3. 印象採得・模型の製作

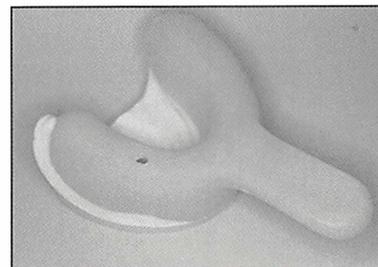
①スナップ印象

粘膜が治癒した時点で、各個トレー製作のためのスナップ印象を採得します。

ポイント ハイジーンスクリーを装着した状態を印象するか、より正確な各個トレーを製作するためには、トランスファーキャップ スクリューリテンドヘクスタイプを装着した状態での印象をお勧めします。

②各個トレーの製作 **ラボサイド**

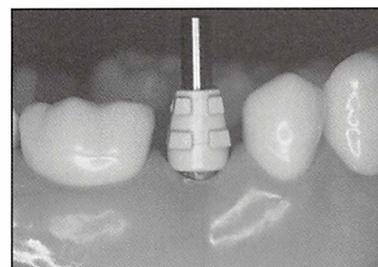
研究模型上の残存歯およびトランスファーキャップ スクリューリテンドヘクスタイプを取り込む印象域に、パラフィンワックス1~2枚程度を圧接し、印象スペースを確保します。その後、トレーレジンをを用い通法により各個トレーを作製します。ただし、咬合面側にはトランスファーキャップ フィクスドスクリーの操作孔を開けます。



③トランスファーキャップの連結

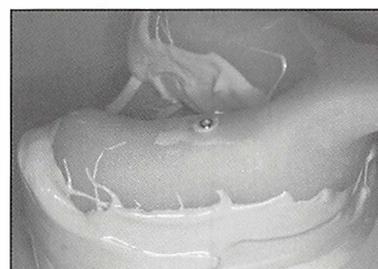
ヘクスドライバーにてハイジーンスクリーを取り外します。アバットメントにトランスファーキャップ スクリューリテンドヘクスタイプを装着し、トランスファーキャップ フィクスドスクリーにてネジ固定します。

ポイント 連結時は強く締めすぎないように注意します。



④印象採得

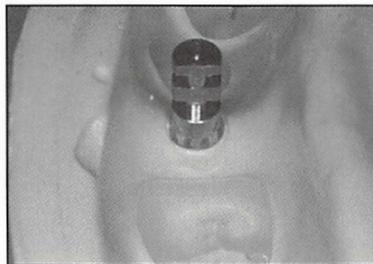
シリコンラバー印象材を用い、あらかじめ用意した個人トレーで印象採得を行います。その時、トランスファーキャップ フィクスドスクリーがトレーの開口部に適合していることを確認します。採得後はトランスファーキャップ フィクスドスクリーを完全にゆるめてからトレーを口腔内から撤去します。



⑤ 模型の製作

スクリーリテンドアバットメント メタルアナログを印象内のトランスファーキャップ スクリーリテンドヘクスタ입に装着し、トランスファーキャップ フィクスドスクリーにて固定します。その後、超硬石膏を注入して模型を製作します。

ポイント アナログを装着する際、マージン付近の印象材を挟み込まないように十分注意して下さい。



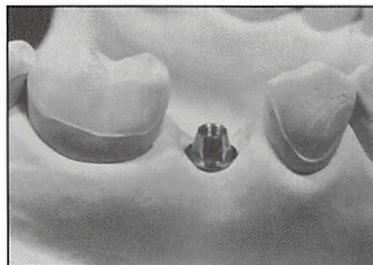
⑥ 模型の完成

石膏硬化後、トランスファーキャップ フィクスドスクリーを取り外し作業模型が完成します。

⑦ 咬合採得

咬合が安定している場合は、通法に従ってチェックバイトをとります。

咬合が不安定な場合は、咬合床を製作します。



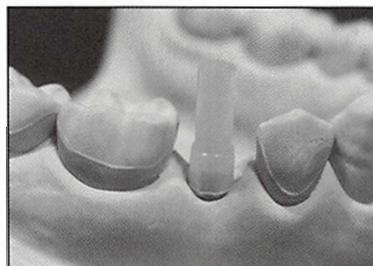
4. 上部構造の製作

上部構造の製作は、キャストブルシリンダーを用いた鑄造法となります。

この方法についてご説明します。

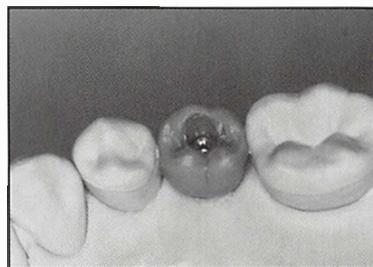
① キャスタブルシリンダーの連結 **ラボサイド**

スクリーリテンドアバットメント メタルアナログにキャストブルシリンダースクリーテンドヘクスタ입をスーパーストラクチャー フィクスドスクリーにて固定します。



② ワックスアップ **ラボサイド**

対合歯とのクリアランスに応じてキャストブルシリンダーをカットしワックスアップを行います。歯冠形態を回復し補綴物の形態を確認して下さい。前装する場合はカットバックしてフレーム形態を形成します。ワックスパターンを取り外した後、アクセスホール内などにワックスが迷入していないか確認します。



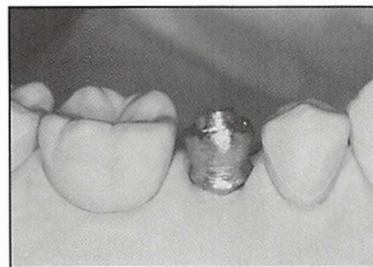
ポイント 必要があれば技工用リーマーにて除去します。

③ メタルフレームの製作 **ラボサイド**

メタルフレームを通法に従い製作します。

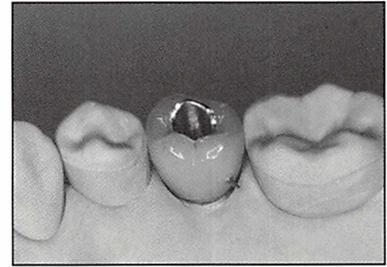
ポイント メタルフレームには

- ・ 陶材焼付用合金 KIK ジースリー
KIK エイブル
KIK ウィング
- ・ フルクラウン PGA21
を使用します。



④メタルフレームの試適

口腔内に試適し、違和感・疼痛の発現や適合の確認をします。
このときマージンのカウントウアーの確認をします。

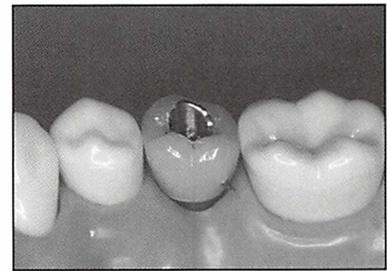


⑤上部構造の完成 **ラボサイド**

メタルフレームに陶材の前装を行い完成します。

⑥上部構造の装着

上部構造をアバットメントに装着し、接触点と咬合の調整を行います。
その後スーパーストラクチャー フィクスドスクリューをヘクストルクドライバーにて所定のトルクで固定します。



ポイント アクセホールはねじ上部をストッピング等で保護し、さらに耐久性や操作性を考慮してコンポジットレジンなどで封鎖します。

■ アバットメントを撤去する際の注意点

アバットメントを撤去する場合は、クロスドライバーを用いてアバットメント フィクスドスクリューを撤去してください。その後、アバットメント リムーバーを時計回りに回転して、アバットメントを撤去します。

ポイント ドライバーをアバットメント フィクスドスクリューにしっかり差し込むようにして下さい。

3

多数歯欠損の術式

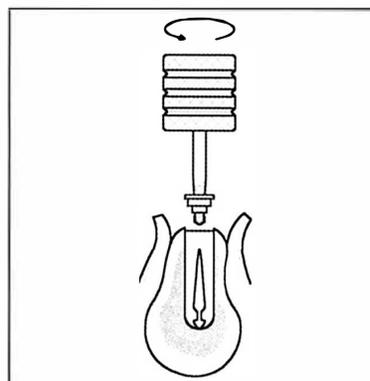
1. 第2次手術の術式

- ①口腔内洗浄、消毒、浸潤麻酔
- ②歯肉粘膜・骨膜の切開・剥離
- ③カバースクリューの撤去

ヘクスドライバーを用いてカバースクリューを取り外します。

ポイント カバースクリューの上に骨ができて外せない場合があります。その際はラウンドドリルにて骨を除去して下さい。

ポイント ドライバーを強めに差し込むことで把持され、落下防止になります。



④スクリーリテンドアバットメントの装着

インプラントボディ内部を十分に洗浄したのちスクリーリテンドアバットメントをインプラントボディに装着し、アバットメント フィクスドスクリューをクロス トルクドライバーにて固定します。

ポイント スクリューをドライバーに付ける際は、アバットメントにスクリューを入れ、ドライバーを差し込む方法が便利です。

ポイント トルクをかける際にはインテリジェントレンチにてアバットメントを把持します。

ポイント トルクドライバーにより15N・cmで固定されます。

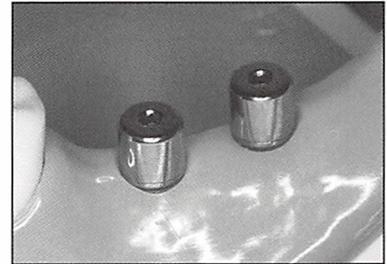
ポイント アバットメントとインプラントボディが適合しているか、デンタルX線にて確認して下さい。



⑤ハイジーンスクリューの連結

粘膜の治癒中に粘膜がマージンに上がってこないように、また、ねじの保護のためにハイジーンスクリュー スクリューリテンドタイプをヘクス ドライバーにて連結します。

ポイント 連結時は強く締めすぎないように注意します。



⑥縫合

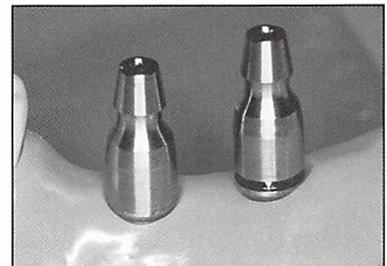
良好な粘膜治癒が行われるように、粘膜の形態を整えて縫合します。

2. 印象採得・模型の製作

①トランスファーキャップの連結

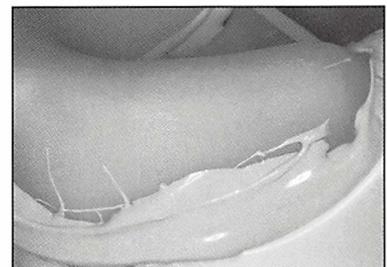
ヘクス ドライバーにてハイジーンスクリューを取り外します。アバットメントにトランスファーキャップ スクリューリテンドフリータイプをヘクス ドライバーにて装着します。

ポイント 連結時は強く締めすぎないように注意します。



②印象採得

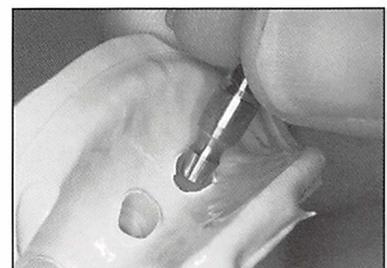
シリコンラバー系印象材を用い、あらかじめ用意した個人トレーで印象採得を行います。採得後は口腔内に残ったトランスファーキャップ スクリューリテンドフリータイプを取り外します。



③模型の製作

スクリューリテンドアバットメント メタルアナログに取り外したトランスファーキャップ スクリューリテンドフリータイプを装着し、印象内に戻します。超硬石膏を注入して模型を製作します。

ポイント マージン付近の印象材を挟み込まないように十分注意して下さい。



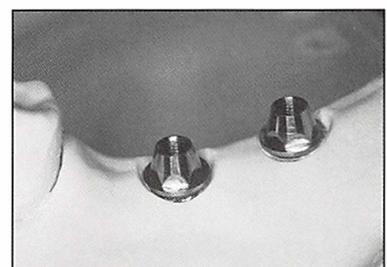
④模型の完成

石膏硬化後、トランスファーキャップ スクリューリテンドフリータイプを取り外します。

⑤咬合採得

咬合が安定している場合は、通法に従ってチェックバイトをとります。

咬合が不安定な場合は、咬合床を製作します。



3. 上部構造の製作

上部構造製作にあたっては、ゴールドシリンダーを用いた鑄接法と、キャストブルシリンダーを用いた鑄造法があります。ここでは、ゴールドシリンダーを用いた鑄接法についてご説明します。

① ゴールドシリンダーの連結 **ラボサイド**

スクリーリテンドアバットメント メタルアナログにゴールドシリンダーをスーパーストラクチャー フィクスドスクリーにて固定します。

ポイント アクセスホール確保には、以下の方法が便利です。

- ・スーパーストラクチャー フィクスドスクリーの代わりにトランスファーキャップ フィクスドスクリーで固定し、ワックスアップする方法。
- ・キャストブルシリンダーのスリーブ部をゴールドシリンダーに即重レジンで固定する方法。

ポイント キャスタブルシリンダーを用いた鑄造法の場合は、ゴールドシリンダーの代わりにキャストブルシリンダーをスーパーストラクチャー フィクスドスクリーにて固定し、以後鑄接法同様の操作で上部構造を製作します。

② ワックスアップ **ラボサイド**

ゴールドシリンダーにワックスアップを行い、歯冠形態を回復し補綴物の形態を確認して下さい。前装する場合はカットバックしてフレーム形態を形成します。ワックスパターンを取り外した後、アクセスホール内などにワックスが迷入していないか確認します。

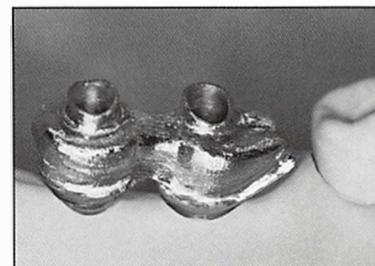
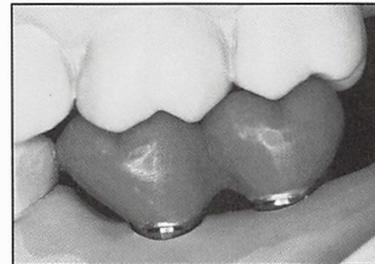
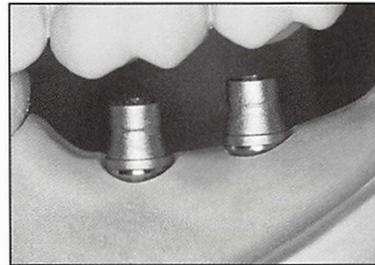
ポイント 必要があれば技工用リーマーにて除去します。

③ メタルフレームの製作 **ラボサイド**

メタルフレームを通法に従い製作します。

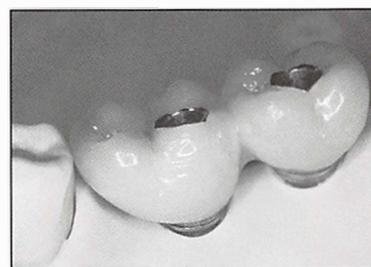
ポイント メタルフレームには

- ・陶材焼付用合金 KIK ジースリー
KIK エイブル
KIK ウィング
- ・フルクラウン PGA21
を使用します。



④ メタルフレームの試適

口腔内に試適し、違和感・疼痛の発現や適合の確認をします。
このときマージンのカントウアーの確認をします。



⑤ 上部構造の完成 **ラボサイド**

必要によりフレームのろう着を行います。メタルフレームに
陶材の前装を行い完成します。

⑥ 上部構造の装着

上部構造をアバットメントに装着し、接触点と咬合の調整を
行います。
その後スーパーストラクチャー フィクスドスクリーを
ヘクス トルクドライバーにて所定のトルクで固定します。



ポイント アクセホールは、ねじ上部をストップ
等で保護した上に、耐久性や操作性を考慮して
コンポジットレジンなどで封鎖します。

■ アバットメントを撤去する際の注意点

アバットメントを撤去する場合は、クロスドライバーを用いて
アバットメント フィクスドスクリーを撤去してください。
その後、アバットメント リムーバーを時計回りに回転して、
アバットメントを撤去します。

ポイント ドライバーをアバットメント フィクスドスク
リーにしっかり差し込むようにして下さい。

